

児童生徒の生活状況調査

（中間報告）

平成16年3月

栃木県総合教育センター

近年、少子高齢化、国際化、高度情報化、科学技術の進展、環境問題の深刻化などの社会の変化はますます加速しつつあり、教育の分野にも大きな変革が進んでいます。一方では、少年犯罪の増加や不登校、いじめ、学習意欲の低下などの問題が指摘され、心の健康や学力を危惧する声が高まっています。

そこで、本県児童生徒の生活習慣や行動傾向を把握し、「社会性の育成」や「心と体の健康」及び「学びの充実」を目指す指導の在り方を明らかにすることが必要と考え、本年度、小学校第2学年及び小学校第5学年、中学校第2学年、高等学校第2学年（全日制）の児童生徒から約3000人を抽出し、「児童生徒の生活状況調査」を実施しました。

この調査は質問項目の検討を含め3年間の計画で行うものであり、今年度は本調査を実施し、単純集計の結果をこの中間報告書にまとめました。

具体的な調査項目としては、基本的な生活習慣や学校外での過ごし方、読書、悩み事などの家庭生活に関する質問、勉強することの意義や平日と休日の学校外での学習時間などの学習に関する質問、悩みや不安、身体的症状などの心や体の健康に関する質問などによって構成しました。また、過去に実施された「児童生徒の学校外における生活実態調査」（栃木県総合教育センター：平成9・10年度実施）と「児童生徒の心の健康と生活習慣に関する調査」（文部科学省スポーツ・青少年局：平成13年度実施）の問題を一部取り入れました。

平成16年度には、さらに詳細な分析と考察を行い、報告書にまとめる予定ですが、今後の研究を含めて、栃木県の教育の重点である「生きる力をはぐくむ学校教育の充実」の実現のために役立てていただければ幸いです。

平成16年3月

栃木県総合教育センター所長

豊田敏盟

目次

| | |
|-------------------|----|
| 調査の概要 | 1 |
| 集計結果 | 5 |
| 【A あなたの普段の生活について】 | 7 |
| 【B 勉強のことについて】 | 52 |
| 【C あなた自身のこと】 | 60 |
| 資料 | 69 |
| 小学校第2学年用調査・回答用紙 | 71 |
| 小学校第5学年用調査・回答用紙 | 74 |
| 中学校第2学年用調査用紙 | 79 |
| 中学校第2学年用回答用紙 | 84 |
| 高等学校第2学年用調査用紙 | 85 |
| 高等学校第2学年用回答用紙 | 90 |

調査の概要

1 調査の趣旨

栃木県総合教育センターでは、平成9・10年度に「児童生徒の学校外における生活実態調査」を実施し、本県児童生徒の普段の生活状況について考察を行い、その結果を紀要で報告した。また、その後も児童生徒の発達課題に関する研究などを通して問題点とその対策を探ってきた。

近年、児童生徒の社会性や心の健康をめぐる様々な問題や学力を危惧する声が高まっていることから、本県においても学びの場としての学校教育の機能を再検討することが必要と考え、平成14年度には質問項目を検討し、今年度（平成15年度）は調査の実施と単純集計の結果を中間報告にまとめ、平成16年度には詳細な分析・考察をして報告書にまとめるという3か年計画で実施することとした。

2 調査の目的

本県児童生徒の生活習慣や行動傾向を把握し、「社会性の育成」や「心と体の健康」及び「学びの充実」を目指す指導の在り方を明らかにすることを目的とする。

また、本県の子どもに関する基礎資料として報告書を作成し、学校及び教育研究団体、教育行政機関等への情報提供を行うことにより、本県の教育振興ビジョンに示された学ぶ力をはぐくむ教育の充実と心の教育の推進、ひいては生きる力をはぐくむ学校教育の充実に寄与する。

3 調査の方法

(1) 抽出方法

平成9・10年度に実施した「児童生徒の学校外における生活実態調査」との比較を考慮し、前回の抽出方法を踏襲した。

ア 栃木県内市町村立小・中学校

市町村人口規模別、学校規模別のグループを設定し、それぞれのグループから偏りがないよう無作為に学校を抽出し、その学校の当該学年の1学級を対象とした。

イ 栃木県立高等学校

全日制高校について学区・学科別のグループを設定し、それぞれのグループから偏りがないよう無作為に抽出し、その学校の当該学年の1学級を対象とした。

(2) 調査対象

| 学 年 | 対 象 学校数 | 実施児童 生徒数 | 男女別内訳 | |
|----------|------------|-------------|-------|------|
| | | | 男子 | 女子 |
| 小学校第2学年 | 26 | 754 | 391 | 363 |
| 小学校第5学年 | 26 | 777 | 380 | 397 |
| 中学校第2学年 | 23 | 706 | 363 | 343 |
| 高等学校第2学年 | 20 | 755 | 397 | 358 |
| 計 | 95 | 2992 | 1531 | 1461 |

(3) 調査方法

質問紙により回答を求めた。所要時間は各学年とも概ね 40 分程度とした。

(4) 実施期日

平成 15 年 9 月 16 日（火）から 10 月 17 日（金）までのうち、学校が定めた期日。

4 質問の構成

各学年の質問項目は、下表に示した 3 つの領域から成っている。各領域の項目数は、学年により異なっている。A と B の領域には、過去の状況との比較のために栃木県総合教育センターが平成 9・10 年度に実施した「児童生徒の学校外における生活実態調査」（以後「前回調査」）の問題が数問含まれている。

なお、C の領域は、生活の状況と心の健康との関連を探るために今回新たに導入したものである。これは、文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課が平成 13 年度に実施した「児童生徒の心の健康と生活習慣に関する調査」の質問項目を用いた。

表 各学年の領域別質問項目数

| 領域 \ 学年 | 小学校 第 2 学年 | 小学校 第 5 学年 | 中学校 第 2 学年 | 高 校 第 2 学年 | 備 考 |
|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--|
| A あなたの普段の生活について | 16 | 18 | 18 | 18 | 小 2 のみの質問あり。小 5 から高 2 までほぼ同じ質問である。 |
| B 勉強のことについて | 4 | 7 | 7 | 7 | 小 2 のみの質問あり。小 5 から高 2 まで同じ質問である。 |
| C あなた自身のことについて | 3 | 36 | 42 | 42 | 小 2 は 3 問のみ。小 5 は、中 2（高 2）の質問を数問減らしたものの。 |